

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100153
法人名	日本ケアシステム株式会社
事業所名	グループホームよろこび
所在地	松山市堀江町甲2082-1
自己評価作成日	平成24年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が近く、自然に恵まれた場所にあるグループホームです。ゆったりとした暮らしの中でのんびりを感じ、自然と笑顔がこぼれる生活を大切にしたいと思っています。

職員は入居者様の表情や状態を常に観察し不安の解消や休息が取れるように心がけ介護を行うように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者や地域の地名等でしりとりを楽しまれており、川の名前が出ると、メダカの話になり、一緒にメダカの歌を歌うようなこともある。利用者にとって馴染みのある地名から話し始めると話が拡がり、又、関連する事柄で会話が弾み、利用者の以前の様子も知ることにもつながっている。

●管理者は、広報誌や雑誌で外出先について情報を得て、利用者提案されている。桜、コスモス等の季節の花を見に出かける際には、事業所で使用している使い慣れたいすを持参して、花をゆっくり鑑賞できるように支援されている。動物園に出かけた際には、珍しい動物を近くで見ることができ、利用者も喜ばれたようだ。園内のレストランでは、好きなものを選んで昼食をとり、いつもよりたくさん食べる利用者もあったようだ。管理者が他事業所の運営推進会議に出席される際、利用者も一緒に出かけ会議に出席されることもある。高齢のご家族には、管理者がご自宅に介護計画の説明にうかがっておられ、その際、利用者も一緒に帰って、ご家族とお茶を飲む等して過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名 グループホームよろこび

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

金澤 大輔

評価完了日

平成 24 年 6 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 笑顔という理念のもと笑顔で入居者様に接する事によって入居者様も安心して生活できるように心がけている。	
			(外部評価) 「笑顔」と理念を掲げて、居間に掲示しておられる。管理者は、職員が心にゆとりを持って「笑顔」でケアに取り組めるよう、いつでも連絡が付き、相談できたり駆け付けられるようにされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の回覧板を入居者様と一緒に回しにいっている。また運営推進会議に地域の警察官の方やコミュニティ活動を行ってくださっている方を招き地域の情報を得ている。またまもる君の家の設置にも協力している。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席して下さっている民生委員の方に、地区のボランティアの方を紹介していただき、運営推進会議時に、伊予万歳を披露していただいたこともある。事業所は、「まもる君の家」に登録されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 他の部署と共同での行事を行うさいには、地域の方やボランティアの方にも参加していただき入居者様との交流を図っている。施設全体として地域の公民館に出品などしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に地域の防犯防災ボランティアを行っている方を招き地域の防災情報を得て避難時の対処を考えたり他のグループホームの方から外出のおすすめスポットの情報や介護に関する相談をし意見をもらいいろいろな目線からの情報や考え方を得ている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者やご家族の代表者、民生委員の方や、他事業所の職員等が参加されており、毎回、事業所から行事報告を行い、気になる利用者の状態等の経過等についても報告されている。前回の評価実施後から、会議に参加できなかったご家族には、毎回議事録を送付されている。管理者は、地区の駐在所にあいさつに出向き、会議への参加をお願いされ、参加いただけようになった。会議時には、災害、防犯、交通安全について等、事業所や地域の高齢者に向けて、「気を付けること」を説明して下さった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して市町村職員からの意見や情報を聞いたり不明な点があれば電話で質問したりしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に地域包括支援センターの担当者からいただいたアドバイスをもとにして、いざという時、連絡がスムーズに行えるよう、ご家族の連絡先を書いたものや職員の緊急連絡網を整備されていた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中フローに必ず職員がいるようにし玄関は施錠しないようにしている。夜間は安全の為玄関を施錠している。やも得ない理由の為1名のみ身体拘束を行っているが家族様より同意を得ている。また本人の体の負担にならないように対処している。</p> <p>(外部評価) 毎月、身体拘束委員会を開き、勉強会を行っておられる。資料等をファイリングして、参加できなかった職員は内容を確認するようになっている。事業所では現在、利用者の状態によって、安全のためではあるが、ずれ落ち防止のための車いすの腰ベルトや掻きむしることを防ぐために、両手にミトンを使用されている。</p>	<p>事業所は、利用者の立場で考えることを大切にされている事業所でもあり、今後さらに、利用者が安全で自由に暮らせるように、身体拘束をしないケアの実践に向けて、ケアの工夫を考え続けていかれてほしい。拘束をすることでの弊害についても、ご家族も交えて話し合ってみてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は介護者側に心のゆとりがないと虐待に繋がると考えており職員にも気持ちに余裕を持ち優しく入居者様に接するようにまた時間がかかっているのゆっくり丁寧に介護するように職員会などで言っている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は研修などで成年後見制度について学んでいるが職員に対して勉強会などを行うにはいたっていない。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約時には重要事項説明書に沿ってゆっくり説明し分かり易い言葉などに置き換えたりし家族様に理解していただくようつとめている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は家族様が面会に来られた際に会話する機会を持ち要望や意見生活状況などを説明している。また玄関先にご意見箱を設置している。毎月お便りを家族様に送付している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個別に写真と、ご本人の様子を書いたコメントを入れて、毎月ご家族に送付されている。ご家族の来訪時には、居間で他の利用者の暮らしぶり等をみていただきながら、ご本人の体調や日々の様子をお話したり、時には、実際に入浴の様子を見ていただきながら、現在の支援方法を説明するようなこともある。管理者は「ご家族が直接は言われたいようなニーズにも対応していきたい」と考えておられ、ご家族との会話の中から、気持ちをくみ取るよう心がけておられる。遠方にお住まいのため、事業所になかなか足を運べないご家族には、電子メールを利用してご本人の様子を報告することもあり、行事等の写真を添付され、ご家族に喜ばれている。管理者は、今後、家族会の開催についても検討していきたいと考えておられる。ご家族も事業所の取り組みに参加していただいたり、ご家族同士の交流の場等も工夫され、今後さらに、利用者の「笑顔」のある暮らしをご家族とともに支えていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 月に1回職員会議を開き職員の意見を聞くようにしている。緊急を要する場合は臨時職員会を開催している。職員会で話してもらいたい議題を常に受付優先順位を決め職員会前に各職員にメールで議題を送信し職員会までに考える時間を設けている。</p> <p>(外部評価) 職員からの提案で、今後、バイキング形式で食事するような機会を計画されている。工作の得意な職員が、トイレトペーパーの芯や空き箱を使って、利用者と一緒に工作をすることもある。あじさいや紅葉等、季節感を感じる貼り絵も利用者と一緒に作り、飾っておられる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 職員は年2回自己評価表を記入し自分の仕事に対する評価を提出している。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 管理者は研修の案内に目を通し職員個々にあった研修に参加してもらっている。また管理者が受けた研修で得たものを勉強会を開き職員のレベルアップに努めようとしている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 他の事業者の運営推進会議に管理者以外の職員も積極的に参加してもらっている。また管理者同士で意見交換や相談なども行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 入居時に本人の馴染みの物を持ち込んでもらう事も出来る事を家族様また入居者様に説明したり生活するにあたって不安な事や心配な事を聞くようにつとめている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族様と本人に見学していただいて医療との連携やどのように生活スタイルを継続したいかなどを聞き入居前の不安や不明な点を説明するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 在宅で生活していた時にどのような事に困っていたか意見を聞き入居後のサービスに反映できるように職員に情報提供しスムーズに介護に生かせるように努めている。協力医療機関の説明また連携についても話をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は入居者様一人ひとりの特徴を掴むように努力し入居者様の状態(気分)を観察し共に生活して行く為協力していただくような姿勢を意識して去ように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が面会に来られた際には生活状況を話すようにしたり入居時に出来るだけ多く面会していただくように説明している。また面会に来れなく状態が気になっている家族様には時折電話連絡し状態を説明行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) グループホームでドライブに行く際には馴染みの場所に行ったり以前住んでいた近くのスーパーにお菓子を買ったりしている。 (外部評価) 利用者は、地元の方の利用が多く、地域のことを良く知っておられ、ドライブしていると建物やお店等のことを教えてください。又、利用者の道案内で車を走らせると、その利用者のご自宅に着いたようなこともあったようだ。併設施設の利用者も地元の方が多く、ご家族が事業所に立ち寄りお話しして帰られることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が入居者様間関係を把握するよう努力し一緒に作業を行ったりするようにしている。認知症の進行で継続的に共同で過ごす事の難しい入居者に対しては気分や表情を観察し可能な限り共同で過ごせる時間を設ける努力をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても必要に応じて家族様の相談や支援ができるように努力している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族様から本人様がどのような生活をされてきたか情報収集したりグループホーム内での様子を観察し個々の生活様式に合った援助ができるよう意識する事に努めている。 (外部評価) 言葉で意思を表すことが難しいような利用者、職員は、表情等も観察して、「今、ご本人がどのような気持ちでおられるか」を考えながら対応されている。職員は、「利用者と言葉で通じ合えないような時でも、にっこり笑ってくれたら、気持ちに通じていると感じる」と話してくださった。利用者や地元の地名等でしりとりを楽しまれており、川の名前が出ると、メダカの話になり、一緒にメダカの歌を歌うようなこともある。利用者にとって馴染みのある地名から話し始めると話が広がり、又、関連する事柄で会話も弾み、利用者の以前の様子を知ることにもつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者様一人ひとりの生活スタイルを把握できるように努力し援助している。(ゆっくり生活したい方 作業がしたい方等)また無理をさせないように表情観察を行うように管理者を職員に話している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 共に生活する中で自ら意思表示をする事の難しい入居者様に対しては自分に置き換えたなら今どうしたいかと考える意識を持ち介護するように管理者は話している。また適度に休息を取っていただくように話をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護計画を作成する際は家族様から意見を聞いたり可能な方であれば管理者と入居者様が話しをしニーズの把握に努められるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、利用者が暮らしの希望を言いやすいよう居室で過ごす時等、一対一でゆっくり話をする時間を作っておられる。テレビを見ることを楽しみにされている利用者の方には、ご本人のお好きなテレビドラマや歌番組を見られるよう、介護計画の支援内容に採り入れておられた。ご家族から「浴槽で温まれるよう入浴させてほしい」というような希望もあり、支援に反映しておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>記録の際介護計画に関する事項は色を変えて記録するように工夫し日々の介護の中で気づきなど記録し介護計画に反映できるように努力している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設型の長所を生かし他の部署への行事に参加したりしている。運営推進会議で繋がりを持った他事業所の行事に参加させていただく事もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティア活動をされている方から情報をいただき入居者様が楽しめるような機会を提供できるように努力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族様が納得していただけるようにかかりつけ病院への受診に同行して頂いたり家族様が都合の悪い時などは職員が通院に付き添う事もある。受診後に家族様に状況を説明している。検査を行う際には医療機関の選択を家族様に選択していただいている。	
			(外部評価) 月2回の協力医の往診や、必要に応じて訪問歯科を利用されている。訪問マッサージを受ける方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関に定期的に往診に来ていただいている事により体調不良は協力医療機関に連絡し主治医や看護職連携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には職員が面会に行き医療機関また家族様と連携を取る事により退院後の注意点や意向を把握するよに努力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期には家族様の意向を尊重し主治医と相談し対応するようにしている。また家族様と主治医との連絡調整を行っている。またどのように終末期を過ごすか家族様と話し合い希望に添えるよう援助を行うようにしている。	
			(外部評価) 現在、事業所での看取り支援を希望する利用者、ご家族が3名おられ、ご家族からの提案もあって、緊急時のご家族への連絡先や対応について、ご家族と話し合い「緊急時の対応書」を個別に作成されていた。事業所でも看取り支援のマニュアルを作成されている。夜間時、職員は管理者に連絡して相談されたり、いざという時は駆けつけてくれることを職員は心強く感じておられ、不安の軽減になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設でAEDを設置し使用方法などの講習を行っている。また管理者は普段から初期対応の大切さを話している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3月下旬にショートと合同で夜間想定避難訓練を実施した。運営推進会議に地域の防災ボランティアの方を招き防災マップを使用し地域の状況説明を受けている。また等施設は地域の指定避難場所となっている。 (外部評価) 年に2回、併設施設と合同で避難訓練を行っておられる。3月には夜間時の火災を想定した訓練を行い、11月の訓練時には、「火災通報用電話機」の使い方を教えていただいたり、職員は布団を使用して利用者の搬送等を体験された。事業所は、海に面した場所にあり、津波の心配がある場合は、3階の屋上が避難場所となっている。	立地条件等も踏まえて、地震や津波等についても、いろいろな場面を想定して、利用者、職員が慌てず避難できるような方法を身につけていかれてほしい。又、管理者は、「併設施設と協力して、地域の避難場所として機能できないか」と考えておられる。今後さらに、運営推進会議等を活かし、話し合いや訓練を重ねられ、地域との関係作りや協力し合えるような体制作りに向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人的要望などあまり聞かれない場合は管理者が居室に行き居室で聞くようにしている。家族様と相談し呼び方を決めている入居者様もいらっしゃる。 (外部評価) 体調が優れないような利用者には、特に安心してもらえるように声のトーンにも配慮して、ゆっくり話しかけるようにされている。利用者同士の関係等も踏まえて、居間の座席を決めておられる。利用者の呼び方について、職員は、ご家族と相談しながら、以前の職業等も踏まえ「先生」とお呼びしたり、以前から名前と呼ばれていた利用者には「○○ちゃん」と呼んでおられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中で入居者様の表情や会話のトーンなどを観察し援助するように努力している。また家事を手伝っていただく際も表情などを観察し見送る事もしている。自分で表現できない方に対しては仕草や表情を見逃さないようまた自分に置き換える視点も持つように管理者は話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 管理者は職員に対して介護者側が主導権を握るのではなく入居者様が主役である事を管理者になってから常に話しをしている。業務が多少遅れても質を求める介護を目指している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族様が洋服を買ってきてくださった場合服の説明をし洋服を選ぶ際に勧めたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は同じテーブルを囲みながら食事をし一人ひとりのペース状態に合わせた援助を行っている。また体調面や気分も考慮し少し遅れて食事をされる入居者様もおり食事時間の強制をしない努力に努めている。 (外部評価) 調査訪問時、昼食時には、ラジカセから利用者がよく歌っている「故郷」の歌等が流れていた。食事が終わったら、下膳する利用者もみられ、利用者によっては、食器ふきをされる方もいる。9月の芋炊き会時には、利用者と食材の買い出しに出かけて一緒に作り、食事を楽しまれた。食がすすまない方には、ご家族が持参された好物のタルトをお出ししたり、お茶に甘みを付ける等して食物を口にできるように支援されている。食事については、ご家族にも関心のあることでもあり、時々、事業所の普段の食事をご家族も食べてみるような機会を作り、事業所の食事や支援について要望や意見をうかがってみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの「食事摂取量や水分量を記録し栄養面に注意している。水分をあまり摂取されない入居者様に対しては管理者が話しをし好みの味付けにし水分を取りやすい環境を設けるように努力している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行い口腔清潔に努めている。訪問歯科診療を利用し口腔状態の把握後家族様の意向を確認後治療また口腔掃除を行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレ排泄していただくように援助している。排泄チェックを改良し排泄状況が分かり易いようにし個々に合った排泄パターンを掴む努力をしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表について、記録用紙の改善に取り組み、10分間隔のメモリが付いたチェック表が作られていた。管理者は「個々の排泄の特徴がより分かりやすくなったので、以前よりきめ細やかな声かけができるようになった」と話しておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を1日1500cc摂取できるように努めている。便秘状態が継続しないように運動を取り入れたりしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に週2回の入浴日を決めている。入浴の際には浴槽に浸かっただけの事を基本としている。本人の意思を確認後入浴を頻度を決めている入居者様もいらっしゃる。	
			(外部評価) 週に2回入浴日を決めて、午後から入浴するよう支援されている。現在、新しく入居された方から入浴の希望をお聞きしながら支援することを始めておられ、ご本人の希望により、週3～4回入浴を支援している方もある。浴槽をまたぐことが難しい利用者用に、木製の板を張った台を浴槽に掛けて、台に腰かけ体をスライドして、ご自分の力を使って浴槽に入れるよう工夫されていた。利用者の認知度に応じて「お風呂に入りましょうね。服を脱ぎましょうね」等、一つひとつ動作を声かけながら支援している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者様の離床時間や表情を観察把握するように努力し座りばなしにならないように適度に休息を取ったり足を伸ばしていただくように援助し身体的苦痛のないように努力している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの内服薬の説明書をファイルし副作用や薬効など確認できるようにしている。薬に名前を記入し誤薬の防止に努め2重チェック体制を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭きやおしぼり巻き洗濯物干したたみなど入居者様の状態や気分を考慮しながら手伝っていただいている。外出機会を多く取るように努力し季節感を味わって頂くように努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出好きな入居者様にはドライブがてら外出機会を多く設けている。また他事業所の行事や天気がいいからドライブなど突発的に出かける事もある。	
			(外部評価) 管理者は、広報誌や雑誌で外出先について情報を得て、利用者に提案されている。桜、コスモス等の季節の花を見に出かける際には、事業所で使用している使い慣れたいすを持参して、花をゆっくり鑑賞できるよう支援されている。動物園に出かけた際には、珍しい動物を近くで見ることができ、利用者も喜ばれたようだ。園内のレストランでは、好きなものを選んで昼食をとり、いつもよりたくさん食べる利用者もあったようだ。管理者が他事業所の運営推進会議に出席される際、利用者も一緒に出かけ会議に出席されることもある。高齢のご家族には、管理者がご自宅に介護計画の説明にうかがっておられ、その際、利用者も一緒に帰って、ご家族とお茶を飲む等して過ごされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様からお金を預かり事業所で管理しているが入居者様が好きな物を買に行ったり事業所にパン屋さんが来られた際にパンが好きな入居者様に声をかけたりしている。また使用用途は家族様に書面にて送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話のやり取りが行えるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 湿度温度計を設置し快適な環境で過ごしていただくように援助している。可能な限り壁の飾りつけなど入居者様と一緒に作成している。また居室トイレの表示を大きくし間違わないように努力している。</p> <p>(外部評価) 居間の一角に畳スペースがあり、テレビを見たり横になる方もいる。壁面には、併設のデイサービスの利用者が毛筆で大きく書いてくださった「赤とんぼ」「故郷」の歌の歌詞を貼っておられ、昼食前、口腔体操、リハビリ体操を行った後に、歌詞を見ながら歌う方もいる。行事や外出時の写真を大きく引き伸ばして、廊下の壁に掲示されており、利用者やご家族もみて、お話のきっかけになっている。毎日、洗たくものを干したり畳んだりしてくださる利用者に職員は、「洗濯がもうすぐ終わりますから、お願いしますね」と、声をかけておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畳コーナーで休息をとったりテレビの前にソファを設置し足を伸ばしゆっくり過ごせる空間を提供できるように工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の身体状態などを観察し畳を使用したり自分のペースで過ごせるように生活スタイル希望等を取り入れられるように努力している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、利用者個々に名前を大きく書いた表札を掛けておられる。ベッドやサイドテーブルは事業所で用意されており、ご家族の写真やお孫さんの結婚式の写真を飾っておられたり、ベッドの枕元に文庫本を数冊置いて、読書する方やラジカセでラジオを聞く方もおられる。併設のデイサービスで作った作品を飾っている居室もみられた。その日の体調や希望によって、食事を居室で食べる方もいる。調査訪問時には、昼食後は、ほとんどの方が居室に入り、横になる等して過ごされていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや廊下に手すりを設置し安全に移動できるような環境整備を行っている。歩行の不安定な入居者様には職員が必ず付き添い自立かつリスク予防に努めている。</p>	